

SBL 通信

第17号



2024年9月発行 仙台市危機管理局減災推進課

近年の宮城県の大雨について 仙台市防災気象専門官 楠本 絵莉子

近年、地球温暖化の影響により、自然災害の激甚化や頻発化を耳にする機会が増えたのではないのでしょうか。

宮城県の年間降水量に関しては、ここ100年の間で増加傾向は認められていません。しかし、1時間に50mm以上の非常に激しい雨は、以前は数年に一度程であった頻度が、近年は増加しています(図1)。

過去の宮城県の大雨事例(※1)では、台風関連による降水が多くを占めています。平成25年に特別警報の運用が開始されて以降、これまで宮城県では2回の大雨特別警報が発表されます。1回目は、平成27年の関東・東北豪雨で、台風第18号から変わった日本海の低気圧に向かって流れ込む湿った空気の影響と、台風第17号周辺から流れ込む湿った空気の影響により大雨となりました。2回目は、令和元年の東日本台風で、台風接近前から湿った空気の影響により前線の活動が活発になり、さらに台風が接近・通過したことで記録的な大雨となりました(図2)。

全ての大雨事例が地球温暖化の影響によるものとは言えませんが、より暖かく湿った空気が入り、大気の状態が不安定になると、降水量が多くなる可能性は増してきます。雨の降る予想がある場合に、大雨警報を発表する可能性は、早期注意情報(警報級の可能性)で確認できます。(※2)最新の気象情報と併せてご確認いただき、日頃の防災・減災活動に役立てていただければ幸いです。

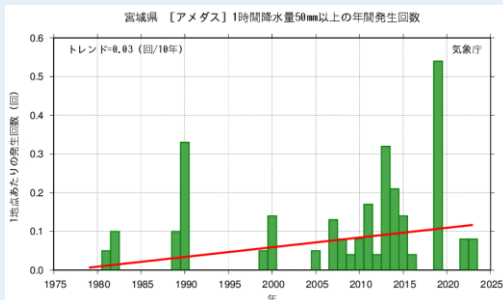


図1 宮城県での1時間降水量50mm以上の年間発生回数

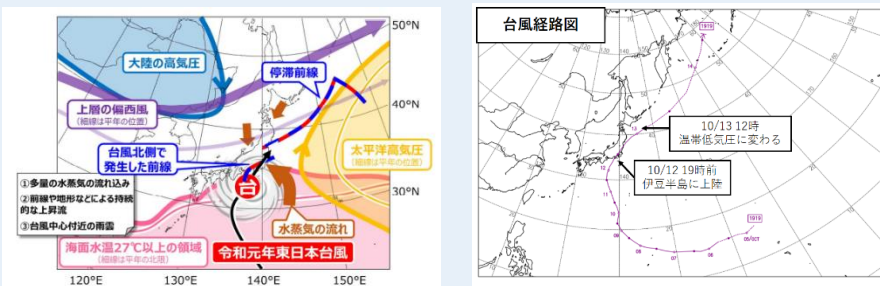


図2 令和元年東日本台風による大雨の気象要因のイメージ図(左)と台風経路図



左:※1 みやぎ水害記録集



右:※2 宮城県の早期注意情報

せんだい災害VRを体験して

青葉区田町町内会 SBL 竹澤 啓介

令和6年5月16日(木)に田町たけのこ会(年配者の集い)で、仙台市防災安全協会のご指導の下、「せんだい災害VR」による防災研修を実施しました。参加者は、五橋包括支援センターの職員を含めて17名です。準備は、アイマスクをしてゴーグル型投影機を顔に付け、眼前に広がる地震のリアルな画面と対面します。今回の地震発生の設定は、①日中、②3階と思われる住宅、③食器棚やテーブル・テレビ等がある居間、④余震も含めた地震発生となっています。



映像は食器棚が倒れガラス容器等が散乱し足の踏み場もないほどです。しかし、「つっぱり棒」で地震対策をしていた戸棚は問題ありませんでした。また、女性の叫び声が印象的でした。その後、日頃の備えと家具の転倒防止対策や非常持ち出し品について学びました。

感想は、大半の方々が46年前の宮城県沖地震(卸町の3階建ビル1階部分の座屈や、ブロック塀が倒れ死者が出た)を経験しており、映像をみて宮城県沖地震と「同じだった」というものでした。参加者は30~40年周期で仙台を襲う大地震について認識しており、日頃から、耐震建築や地震対策等(家具転倒防止、開き戸ロック、ガラス飛散防止フィルム)を行っているようです。



私個人としては、ガラス容器や陶器類の破片が部屋中に散乱する映像をみて、就寝前には、枕元にサンダル、スリッパ類を準備し、避難時に足裏をケガさない対策をしなければと実感しました。

※文中の画像は市内某所の研修の様子です。

災害の備えに、**仙台市 LINE 公式アカウント**を活用しよう!! ~ 仙台市広報課 ~

「LINE」は、チャットや音声通話を**無料**で利用できるスマートフォンのアプリです。家族・友だちとの普段のコミュニケーションや情報収集の手段として、日常的に使っている方も多いのではないのでしょうか。全世代で利用されているため、個人のやりとりだけでなく、町内会等の地域団体内での連絡や、自治体の広報などにも活用されています。

仙台市でも LINE を使った情報発信を行っており、イベント情報のほか、新しく始まった事業や行政サービスなど、市民の皆さんへお伝えしたいさまざまな情報をタイムリーにお届けしています。

仙台市 LINE には、災害の備えに役立つ機能もあります。

受け取りたい情報ジャンルを選ぶことができる「受信設定」機能では、「防災・気象情報」というジャンルを用意しています。これは、大きな地震や津波が起きたとき、大雨警報が発表されたとき、避難が必要なときなどに、「メッセージ」で情報を素早く受信できる機能です。LINE でメッセージを受け取れば、通知でいち早く緊急の情報に気付くことができます。

また、知りたい情報に簡単にアクセスできる、「メニュー」という機能もあります。避難場所や非常持ち出し品リスト、ハザードマップなど、いざというときに必要な情報に、メニュー内のボタンからワンタッチでアクセスできる機能です。

身近な LINE から、少ない動作ですぐに確認できるので、日ごろのチェックやお急ぎの時にも役立ちます。

利用は、仙台市 LINE「友だち追加」!

スマートフォンで右の二次元コードを読み取って「友だち追加」し、「受信設定」や「メニュー」を使って、日ごろの災害への備えにぜひご活用ください。

友だち追加の方法

1

スマートフォンのカメラで右の二次元コードを読み取る



2

「追加」をタップで完了





▶地震が起きたとき実際に配信したメッセージ

▶簡単に情報にアクセスできる「メニュー」

中小河川の洪水浸水想定区域について、県の指定がありました

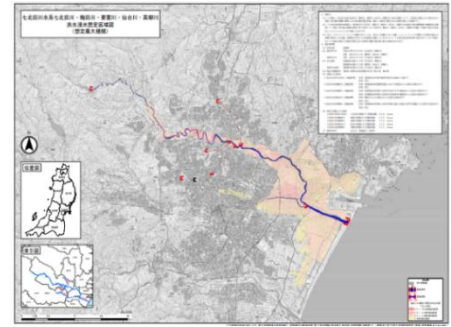
令和3年7月に水防法が改正され、これまでの大河川に加え、洪水による災害の発生を警戒すべき中小河川が、洪水浸水想定区域の指定対象に追加されました。これは、令和元年に発生した東日本台風(台風第19号)等の近年の水害で、大河川以外の中小河川においても河川はん濫等により人的被害が発生したことを踏まえたものです。(今回の洪水浸水想定区域は千年に1回程度(0.001%)と毎年の発生確率は小さいものの、規模の大きな降雨を想定しています。)

県は、この水防法改正により、令和4年から順次県内の中小河川の洪水浸水想定区域の指定を進めており、仙台市内の河川についても、**13河川分が指定**されました。公表された洪水浸水想定区域図は県のHP(みやぎの河川)で確認いただけます。

また、昨年度までに指定された中小河川の洪水浸水想定区域については、「せんだいぐらしのマップ」や「仙台防災ハザードマップ」からもご覧いただけます。

仙台市HP(中小河川洪水浸水想定区域の指定について)では、中小河川の洪水浸水想定区域指定状況などを紹介しています。

ご自身の住む地域や職場等の最新の災害リスク情報を確認し、災害へ備えましょう。



参考:宮城県公表の洪水浸水想定区域図



せんだいぐらしのマップ



中小河川洪水浸水想定区域の指定について

お知らせ

◆ 津波避難訓練のお知らせ 11月5日(火)は津波防災の日です。

訓練の緊急速報メール(エリアメール)により**9時48分**、市内3区(宮城野区・若林区・太白区)の携帯電話が鳴動します。津波避難エリアの皆さんの訓練参加をお願いいたします。

◆ SBL 全市バックアップ講習会のおしらせ

- ・10/16(水) 10時~12時 太白区中央市民センター 3階大会議室
- ・10/16(水) 14時~16時 太白区中央市民センター 3階大会議室
- ・10/20(日) 10時~12時 オンワード樫山仙台ビル 10階会議室

※講習対象はSBLの皆さんのみとなっております。
 同じ内容で計3回実施。いずれか1回を受講願います。
 詳細は後日郵送致します。案内はがきをご覧ください。

編集後記

秋は台風のシーズン。大雨災害の多くは、梅雨の時期か台風の時期と重なっています。平成30年北海道胆振東部地震は台風21号の影響もあり、山腹で多数の土砂崩れが発生し(山肌の「表層崩壊」が発生)、被害が一層深刻なものとなりました。地震と大雨の影響による複合災害も心配です。

〒980-8671 仙台市青葉区国分町三丁目7番1号 仙台市役所本庁舎 2階 仙台市危機管理局減災推進課
 TEL 022-214-3109(直通) FAX 022-214-8096 Eメールアドレス: kks000130@city.sendai.jp

皆さんの掲載したい情報や活動などがありましたら、是非ご連絡ください! 活動報告やご意見・ご相談もお待ちしております!!